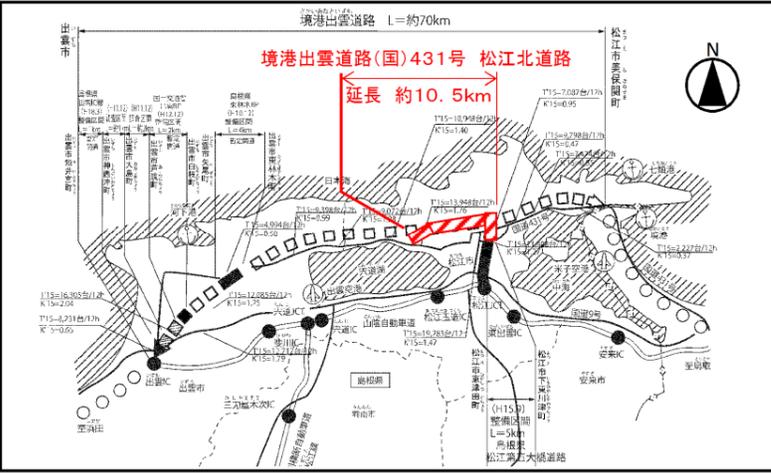


新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業の概要

事業名	地域高規格道路 境港出雲道路 一般国道431号 松江北道路	事業区分	一般国道	事業主体	島根県
起終点	自：島根県松江市西浜佐陀町 至：島根県松江市下東川津町	延長	10.5 km		
事業概要	境港出雲道路は、島根県松江市美保関町と島根県出雲市を結ぶ延長約70kmの地域高規格道路であり、山陰道とともに宍道湖・中海圏域の道路ネットワークを形成するものである。 一般国道431号松江北道路は、境港出雲道路の一部を構成し、また松江市街地の外環状道路を形成する延長10.5kmの路線である。				
事業の目的、必要性	① 外環状道路の形成により、市街地を通過する交通が転換・分散し、市街地の渋滞が緩和される。 ② 市街地の洪水浸水想定エリアを回避すること等で、災害時のリダンダンシーが確保される。 ③ 松江市西部・北西部地域からの山陰道へのアクセスが向上することで居住性や利便性が高まり、定住促進が期待される。 ④ 宍道湖・中海圏域の主要観光ルートへの利便性や周遊性が向上し、観光振興の活性化が期待される。				
全体事業費	261億円	計画交通量	7,100～13,900台/日		
事業概要図	位置図  				

関係する地方公共団体等の意見
 境港出雲道路（松江北道路）建設促進期成同盟会（会長：松江市長）及び出雲・美保関間幹線道路整備促進期成同盟会（会長：出雲市長）から松江北道路の早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 -

事業採択の前提条件
 ・ 便益が費用を上回っている。
 ・ 地元自治体等から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.3	総費用：193億円 （事業費：185億円 維持管理費：7.9億円）	総便益：241億円 （走行時間短縮便益：237億円 走行経費減少便益：1.5億円 交通事故減少便益：2.7億円）	基準年：令和2年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1 (交通量 -10%)	B/C=1.4 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.1 (事業費 +10%)	B/C=1.4 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C=1.1 (事業期間 +20%)	B/C=1.3 (事業期間 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	通過交通の転換により、市街地の渋滞緩和が図られる。 ・ 交通転換に伴う現道交通量の減少。 【現況】171百台/日（混雑度1.76）→【整備後】110百台/日（混雑度1.13） ・ 主要渋滞箇所3箇所（袖師交差点、宍道湖大橋北詰交差点、春日交差点）等の渋滞緩和。		
		事故対策	○	通過交通の転換により交通事故が減少する。 ・ 市街地内の交通量が減少し、渋滞が緩和されることで、交通混雑に起因する事故が減少する。		
		歩行空間	-	・ 注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	○	・ 山陰道へのアクセス時間短縮により、利便性・居住性が大きく向上する。		
		地域経済	○	・ 移動時間短縮や走行性向上により宍道湖・中海圏域の主要観光ルートとしての定時性・速達性が向上し、観光振興に寄与する。 ・ 輸送時間短縮や山陰道へのアクセス向上により物流の効率化が図られる。		
		災害	◎	・ 市街地の洪水浸水想定エリアを回避し、確実な避難・物資輸送ルートを確認する。 ・ 国道431号のバイパスとして、災害時・緊急時の代替路機能を有し、防災機能の強化が図られる。		
環境		-	・ 注目すべき影響はない。			
	地域社会	○	・ 山陰道とともに宍道湖・中海圏域の道路ネットワークを形成し、地域間の交流や連携の強化が図られる。			
事業実施環境	◎	・ 島根の『つなぐ道プラン2020』において、骨格幹線道路として優先的に整備する路線に位置付けられている。 ・ 境港出雲道路（松江北道路）建設促進期成同盟会（会長：松江市長）等から早期整備を要望されている。				

採択の理由

事業主体である島根県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.3と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、松江市街地の渋滞緩和、災害時のリダンダンシーの確保、定住促進、観光振興など、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
 以上により、本事業は令和3年度新規事業化箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。